

資料1

平成30年度

千葉市下水道事業会計決算報告



令和元年12月19日（木）

令和元年度第2回千葉市下水道事業経営委員会

目次

1 事業の概況

- (1) 総括事項・・・・・・・・・・・・・・・・ P.2
- (2) 事業実績・・・・・・・・・・・・・・・・ P.3

2 平成30年度決算

- (1) 収益的収入・支出・・・・・・・・ P.5
- (2) 予算と決算の比較【収益的収入・支出】・ P.6
- (3) 資本的収入・支出・・・・・・・・ P.7
- (4) 予算と決算の比較【資本的収入・支出】・ P.8

3 財務状況

- (1) 経営状況・・・・・・・・ P.9
- (2) 損益計算書・・・・・・・・ P.11
- (3) 貸借対照表（バランスシート）・・・・ P.12
- (4) キャッシュ・フロー（C F）計算書・・・・ P.13

4 中長期経営計画の進捗状況

- (1) 損益計算書・・・・・・・・ P.14
- (2) 資本的収支・・・・・・・・ P.15

5 平成30年度決算における重点事務事業

- (1) 重点事務事業の決算・・・・・・・・ P.16
- (2) 主要事業の実績・・・・・・・・ P.17



- 注1 単位未満を四捨五入で表示しているため、合計が一致しない場合があります。
- 2 本資料においては、千葉市下水道事業中長期経営計画（計画期間：平成22～32年度）を「中長期経営計画」と表示しています。

1 事業の概況（1）総括事項

下水道は、快適で衛生的な生活環境への改善、雨水排除による浸水の防除及び公共用水域の水質の保全のため、欠くことのできない重要な都市基盤施設であるとともに、地球環境に配慮した循環型社会の形成に大きな役割を担っています。

本市では、下水道を千葉市新基本計画に基づく第3次実施計画において、

■安全で災害に強いまちづくりの推進

■快適な生活環境の整備のために必要な施設

として位置づけ、引き続き、

- ・浸水被害を軽減するための雨水対策
- ・水環境保全のための高度処理
- ・下水道施設の再構築
- ・污水管きよ整備

を推進したほか、施設の老朽化や耐震化のための改築・更新や維持管理の充実などに努めました。

このうち、污水管きよ整備については、行政区域面積27,177haの48.5%にあたる、13,191haを全体計画面積と定め、これを中央、南部及び印旛の3処理区に分け、整備を推進しています。

1 事業の概況 (2) 事業実績

平成30年度末の事業計画面積は、13,121haで、このうち、12,282haが整備済みとなり、整備率は、93.6%となりました。

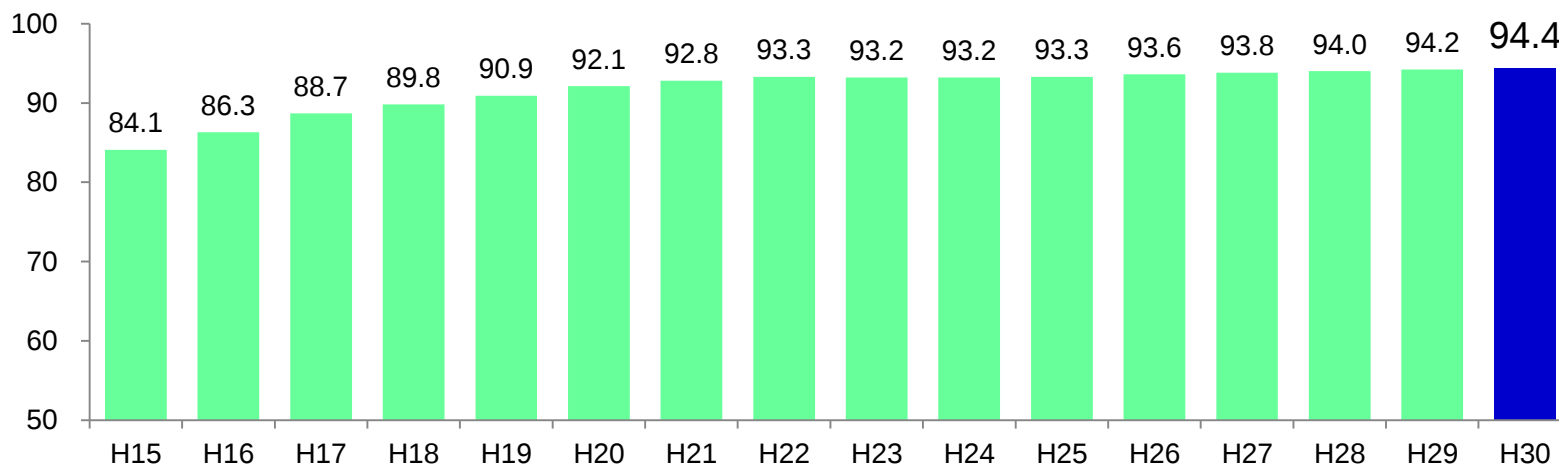
また、行政区域内人口970,455人に対し、整備区域内人口は、944,428人となり、下水道処理人口普及率は、97.3%となりました。

このうち、接続人口については、前年度より2,652人増加し、939,976人となり、接続率は99.5%となりました。

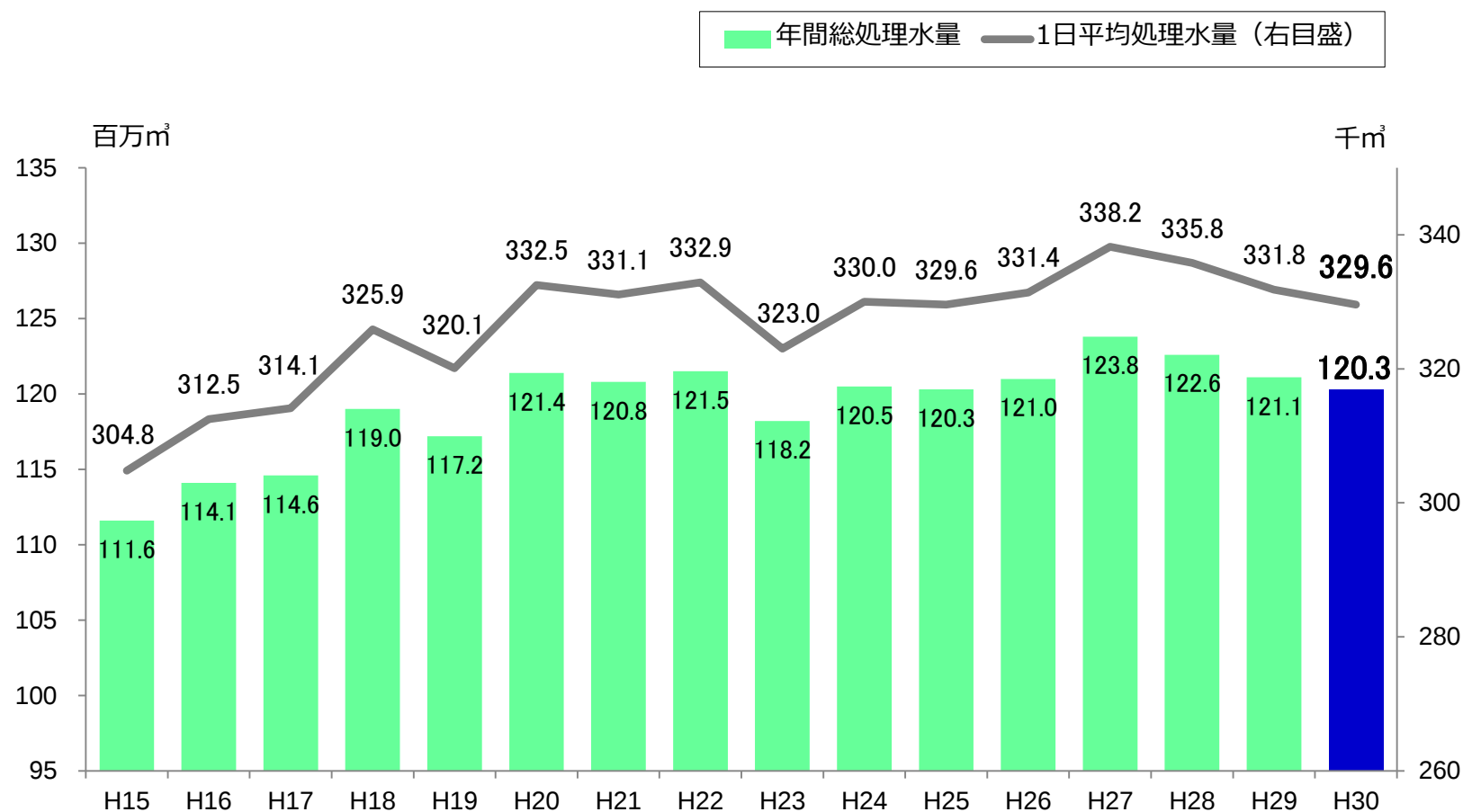
この結果、年間総処理水量は、1億2,029万9,153 m^3 （1日平均処理水量32万9,587 m^3 ）となっています。

整備区域内人口

万人



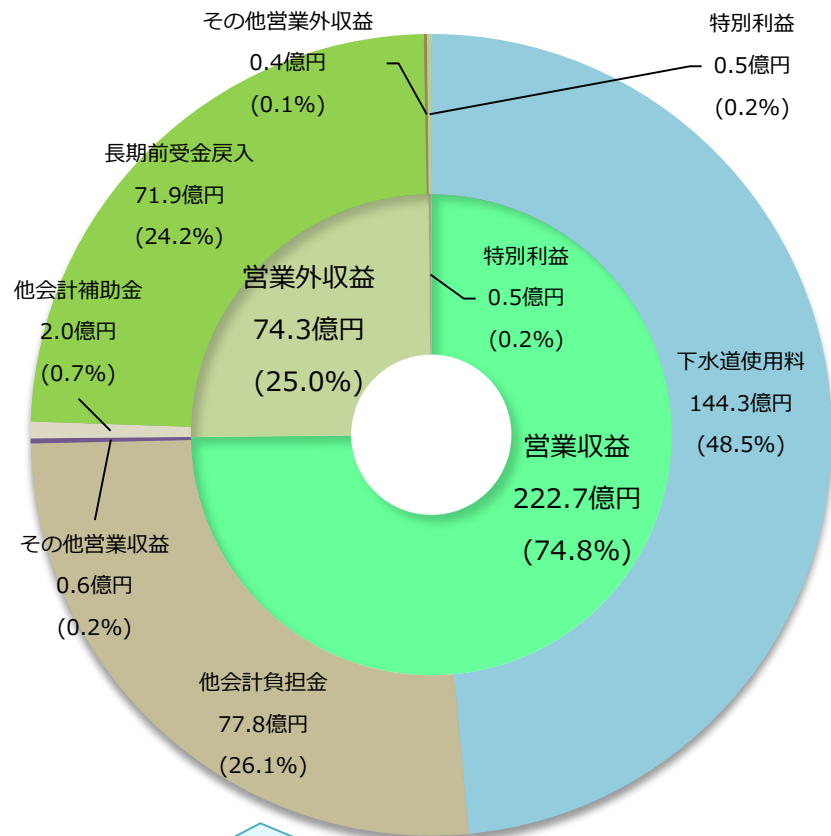
年間総処理水量・1日平均処理水量



2 平成30年度決算 (1) 収益的収入・支出

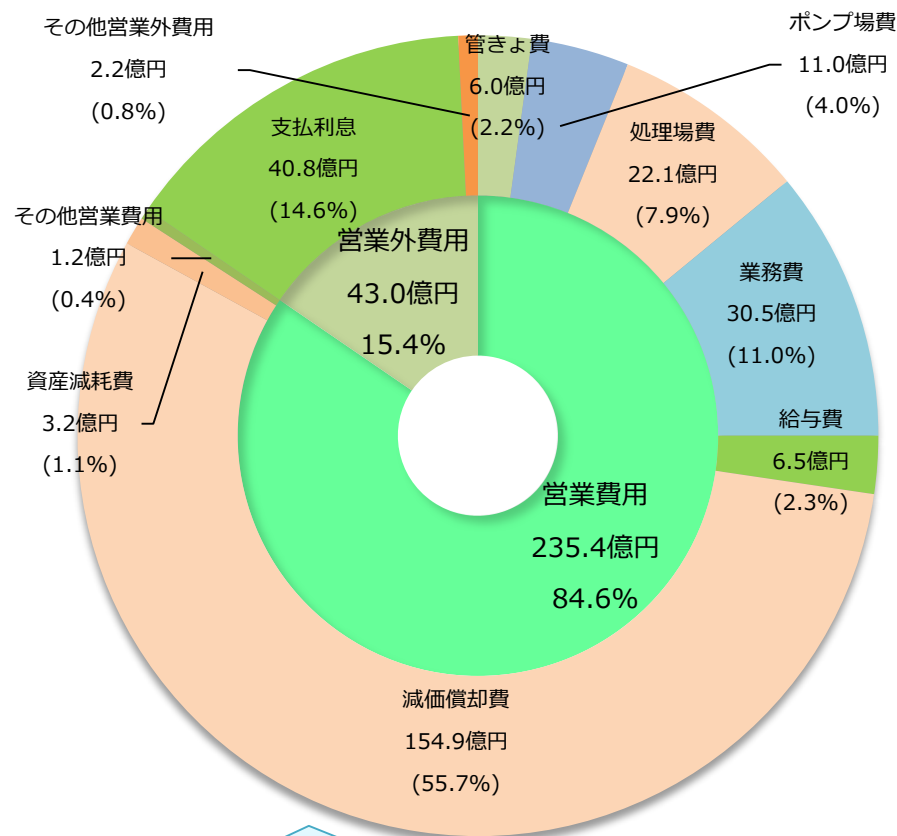
金額は税込み

収益的収入 297.5億円



収益的収入は、下水道使用料などの営業収益222億7,450万円、他会計補助金などの営業外収益74億2,891万円、特別利益が5,010万円、合計297億5,351万円となっています。

収益的支出 278.4億円



収益的支出は、管渠費、ポンプ場費、処理場費などの営業費用235億3,846万円、支払利息などの営業外費用が43億301万円、そのほか特別損失などを加え、合計278億4,433万円となっています。

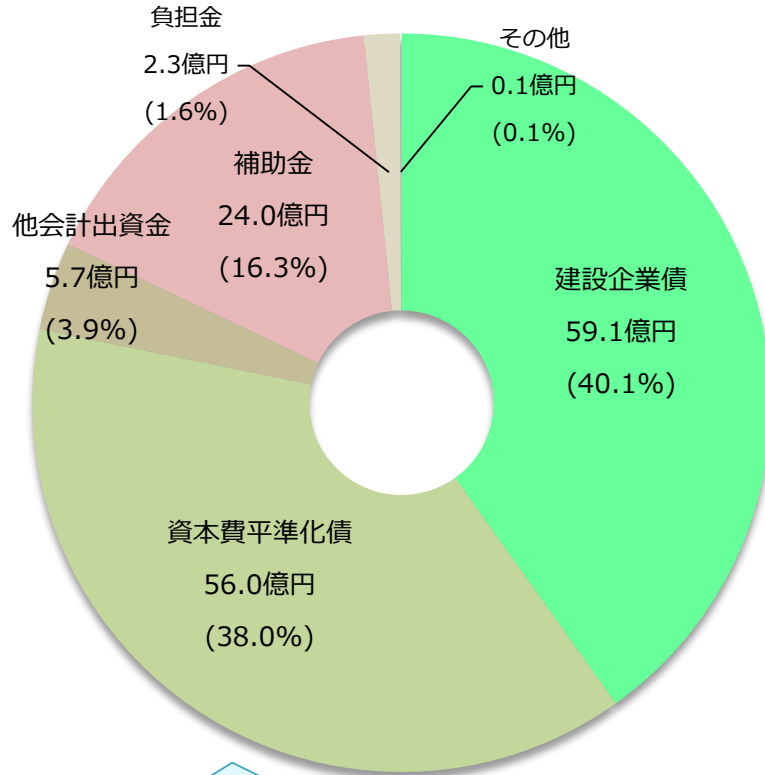
2 平成30年度決算 (2) 予算と決算の比較【収益的収入・支出】

(単位：百万円・税込)	予算現計額	決算額	増減額	収入率／執行率	主な増減要因
1 収益的収入（下水道事業収益）	30,361	29,753	▲608	98.0%	
（1）営業収益	22,581	22,274	△307	98.6%	
①下水道使用料	14,374	14,435	61	100.4%	
②他会計負担金	8,148	7,780	△368	95.5%	一般会計が負担する費用の減（主に減価償却費・資産減耗費の減）
③その他	59	59	0	100.0%	
（2）営業外収益	7,759	7,429	△330	95.7%	
①他会計補助金	214	198	△16	92.5%	
②長期前受金戻入	7,495	7,192	△303	96.0%	資産減耗費に対応した長期前受金収益化額の減
③その他	50	39	△11	78.0%	
（3）特別利益	21	50	29	238.1%	
2 収益的支出（下水道事業費用）	28,960	27,844	▲1,116	96.1%	
（1）営業費用	24,579	23,538	△1,041	95.8%	
①維持管理費	8,338	7,720	△618	92.6%	印旛沼流域下水道維持管理負担金の減、包括的民間委託の燃料費調整等による委託料の減
②減価償却費	15,743	15,495	△248	98.4%	
③資産減耗費	498	323	△175	64.9%	固定資産の除却を伴う更新改良工事の減少
（2）営業外費用	4,360	4,303	△57	98.7%	
①支払利息	4,103	4,086	△17	99.6%	
②その他	257	217	△40	84.4%	
（3）特別損失	11	3	△8	27.3%	
（4）予備費	10	0	△10	0.0%	

2 平成30年度決算 (3) 資本的収入・支出

金額は税込み

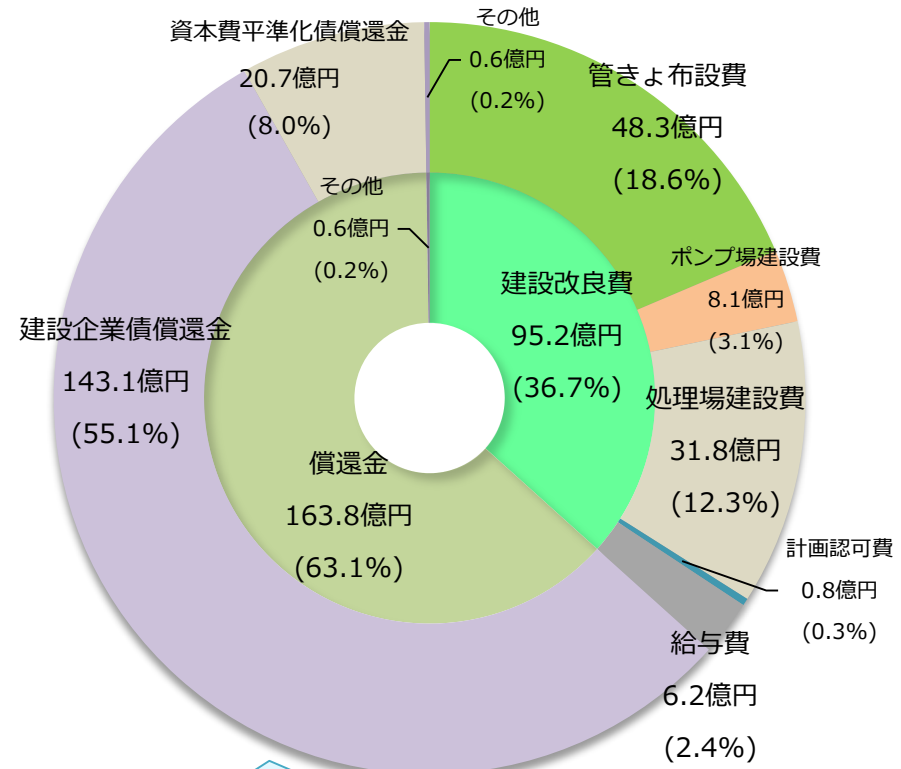
資本的収入 147.2億円



建設企業債及び資本費平準化債115億990万円、国等からの補助金23億9,672万円、その他水洗面所普及事業収入などを加え、合計147億2,070万円となっています。

なお、資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額112億3,733万円は、消費税及び地方消費税資本的収支調整額及び損益勘定留保資金等で補てんします。

資本的支出 259.6億円



建設改良費95億2,226万円、建設企業債などの償還金163億7,698万円、その他施設利用負担金などの固定資産購入費や水洗面所普及事業費などを加え、合計259億5,803万円となっています。

2 平成30年度決算 (4) 予算と決算の比較【資本的収入・支出】

(単位：百万円・税込)	予算現計額	決算額	増減額	収入率／執行率	主な増減要因
1 資本的収入	23,634	14,721	▲8,913	62.3%	
(1) 企業債	17,790	11,510	△6,280	64.7%	
①建設企業債	12,091	5,910	△6,181	48.9%	起債対象となる建設改良費の減
②流域下水道負担金債	33	0	△33	0.0%	
③資本費平準化債	5,666	5,600	△66	98.9%	
(2) 他会計出資金	600	576	△24	96.0%	
(3) 補助金	5,047	2,397	△2,650	47.5%	国庫補助事業の対象となる建設改良費の減
(4) 負担金	185	231	46	124.9%	
(5) その他	12	7	△5	58.3%	
2 資本的支出	34,208	25,958	▲8,250	75.9%	
(1) 建設改良費	17,744	9,522	△8,222	53.7%	・ 翌年度への繰越工事67.1億円 ・ 建設事業の内容精査、入札差金等による不用額15.1億円
①管きょ布設費	9,801	4,833	△4,968	49.3%	
②ポンプ場建設費	2,051	812	△1,239	39.6%	
③処理場建設費	5,100	3,178	△1,922	62.3%	
④計画認可費	92	81	△11	88.0%	
⑤給与費	700	618	△82	88.3%	
(2) 固定資産購入費	70	57	△13	81.4%	
(3) 償還金	16,377	16,377	0	100.0%	
①企業債償還金	14,303	14,303	0	100.0%	
②資本費平準化債償還金	2,074	2,074	0	100.0%	
(4) その他	17	2	△15	11.8%	

資本的収入額が資本的支出額に不足する額は、損益勘定留保資金や減債積立金等で補てんしている。

3 財務状況 (1) 経営状況

平成30年度の業績

()は対前年度増減

金額は税抜き

◆下水道使用料 **133.7億円** (△10.5億円)

有収水量 **96,068,245m³** (△7,502,035m³)

前年度は、千葉県水道局との上下水道料金徴収一元化に伴い、請求が1か月分多かったため。
(平成29年度のみ13か月分)

◆当年度純利益 **14.5億円** (△11億円)

減債積立金(企業債の償還財源)に積み立てます。

◆汚水処理費 **119.2億円** (+0.8億円)

汚水処理にかかった費用で、汚水処理に係る施設の維持管理費や減価償却費等の資本費です。

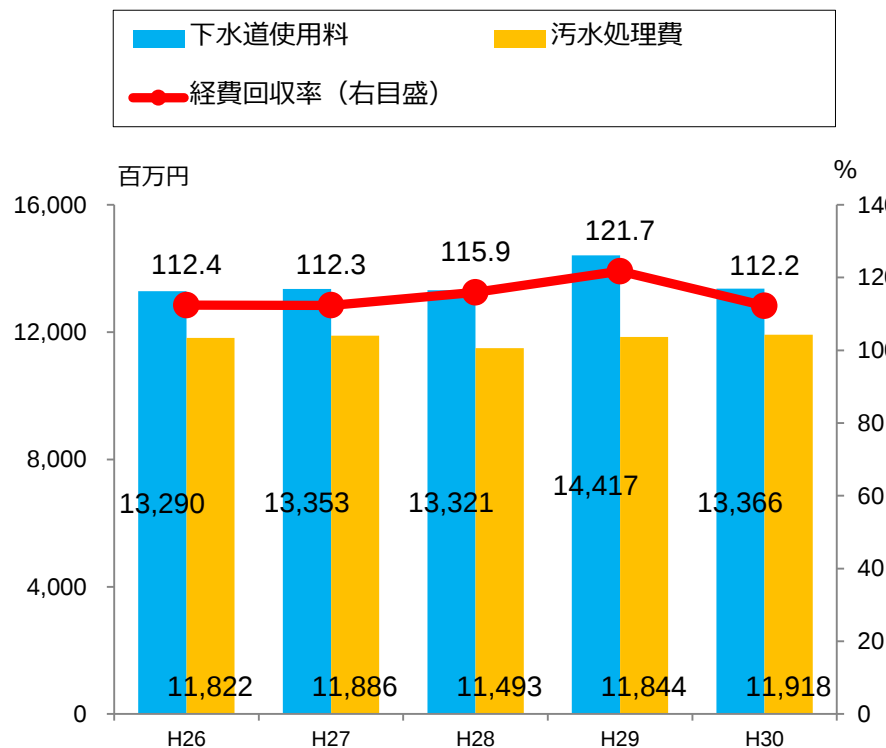
◆経費回収率 **112.2%** (△9.5ポイント) ※高いほど良い

汚水処理費を下水道使用料でどの程度賄えているかを示した指標で、100%以上であれば下水道使用料で賄えていると言えます。

◆経常収支比率 **105.1%** (△3.8ポイント) ※高いほど良い

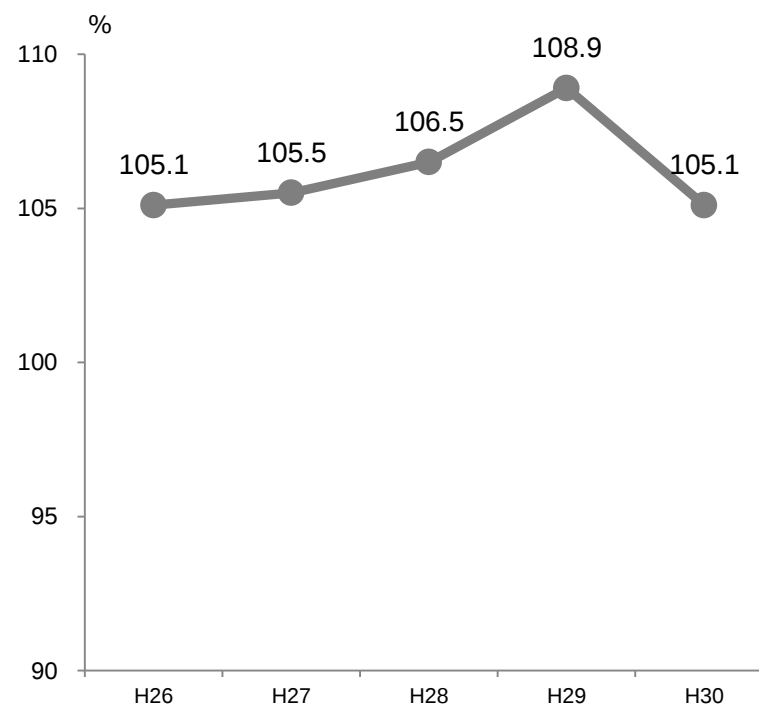
維持管理費など毎年支出する経常的な費用を、下水道使用料など毎年収入する経常的な収益でどの程度賄えているかを示した指標で、100%以上であれば単年度収支は黒字となります。

下水道使用料・污水处理費・経費回収率



経費回収率(%)=下水道使用料÷污水处理費×100

経常収支比率



経常収支比率(%)

= (営業収益 + 営業外収益) ÷ (営業費用 + 営業外費用) × 100

3 財務状況 (2) 損益計算書

(単位：百万円・税抜)	H29年度	H30年度	増減額	増減率
1. 営業収益	22,241	21,201	△1,040	△4.7%
2. 営業費用	22,821	23,067	+ 246	+ 1.1%
営業利益	△580	▲1,866	△1,286	△221.7%
3. 営業外収益	7,425	7,431	+ 6	+ 0.1%
4. 営業外費用	4,419	4,163	△256	△5.8%
経常利益	2,426	1,402	△1,024	△42.2%
5. 特別利益	133	50	△83	△62.4%
6. 特別損失	8	3	△5	△62.5%
当年度純利益	2,551	1,449	△1,102	△43.2%
営業収支比率	97.5%	91.9%	△5.6ポイント	
経常収支比率	108.9%	105.1%	△3.8ポイント	

営業収支比率（％）＝営業収益÷営業費用×100

経常収支比率（％）＝（営業収益＋営業外収益）÷（営業費用＋営業外費用）×100

3 財務状況 (3) 貸借対照表（バランスシート）

(単位：百万円)		H29年度	H30年度	増減額
資産		478,093	472,765	△5,328
	1. 固定資産	466,923	462,576	△4,347
	2. 流動資産	11,170	10,189	△981
負債		427,151	419,762	△7,389
	3. 固定負債	222,345	217,705	△4,640
	4. 流動負債	24,584	24,076	△508
	5. 繰延収益	180,222	177,981	△2,241
資本		50,942	53,003	+2,061
	6. 資本金	25,949	28,368	+2,419
	7. 剰余金	24,993	24,635	△358
自己資本構成比率		48.4%	48.9%	+0.5ポイント

自己資本構成比率(%) = (資本金 + 剰余金 + 繰延収益) ÷ 負債資本合計 × 100

3 財務状況 (4) キャッシュ・フロー (CF) 計算書

(単位：百万円)	H29年度	H30年度	増減額
1. 業務活動によるCF	13,099	10,476	△2,623
2. 投資活動によるCF	△7,170	▲6,818	+352
3. 財務活動によるCF	△2,332	▲4,296	△1,964
資金増減額	3,597	▲638	△4,235
資金期首残高	4,313	7,910	+3,597
資金期末残高	7,910	7,272	△638
フリーキャッシュ・フロー	5,929	3,658	△2,271
業務CF対流動負債比率	53.3%	43.5%	△9.8ポイント

フリーキャッシュ・フロー＝業務活動によるCF＋投資活動によるCF

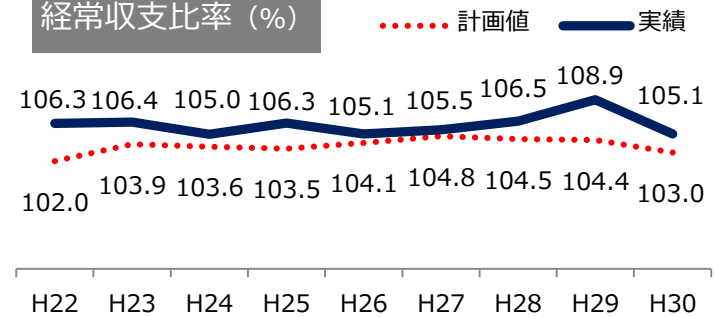
業務CF対流動負債比率（％）＝業務活動によるCF÷流動負債×100

4 中長期経営計画の進捗状況 (1) 損益計算書

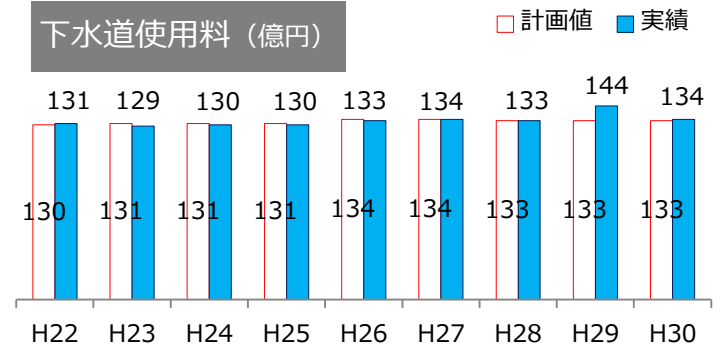
(単位：百万円・税抜)	平成30年度		
	計画値	決算額	計画対比
1 下水道事業収益	29,294	28,682	97.9%
(1) 営業収益	21,511	21,201	98.6%
①下水道使用料	13,309	13,366	100.4%
②一般会計負担金	8,148	7,780	95.5%
③その他	54	55	101.9%
(2) 営業外収益	7,762	7,431	95.7%
①長期前受金戻入	7,495	7,192	96.0%
②その他	267	239	89.5%
(3) 特別利益	21	50	238.1%
2 下水道事業費用	28,449	27,233	95.7%
(1) 営業費用	24,033	23,067	96.0%
①維持管理費	7,792	7,248	93.0%
②減価償却費等	16,241	15,819	97.4%
(2) 営業外費用	4,396	4,163	94.7%
①企業債利息	4,309	4,086	94.8%
②その他	87	77	88.5%
(3) 特別損失	20	3	15.0%
当年度純利益 (△は損失)	845	1,449	171.5%

計画値 平成30年3月の収支見通し精査後の金額

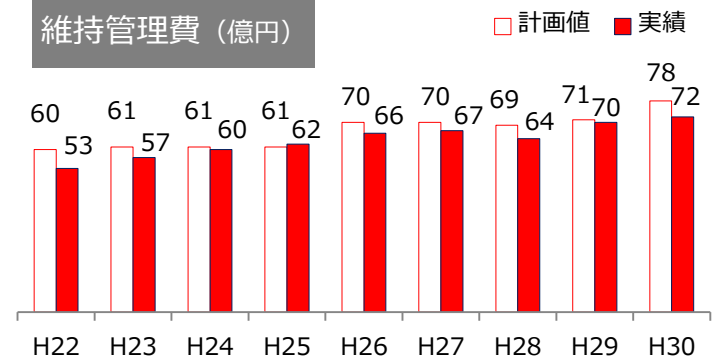
経常収支比率 (%)



下水道使用料 (億円)



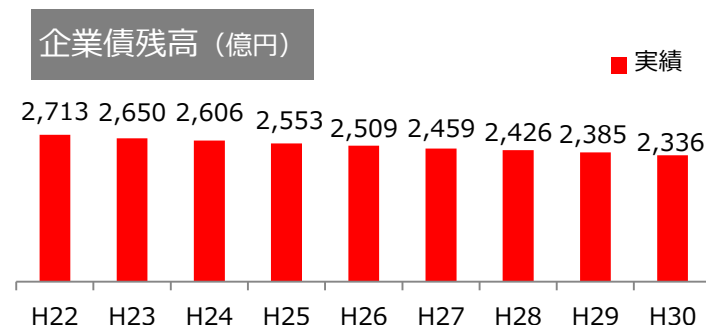
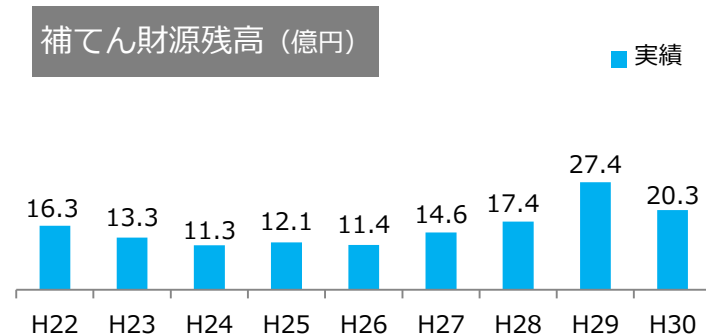
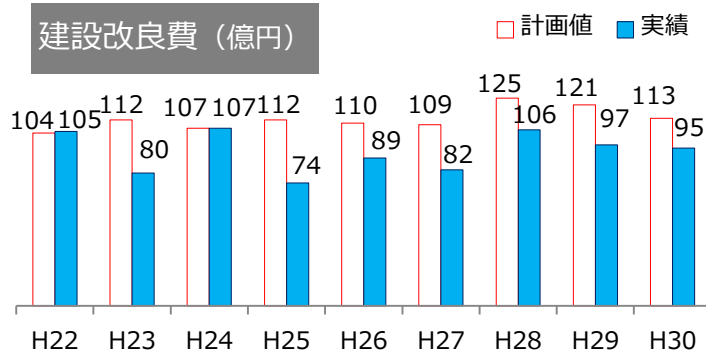
維持管理費 (億円)



4 中長期経営計画の進捗状況 (2) 資本的収支

(単位：百万円・税込)	平成30年度		
	計画値	決算額	計画対比
1 資本的収入	17,240	14,721	85.4%
(1) 企業債	13,650	11,510	84.3%
①建設企業債	7,984	5,910	74.0%
②資本費平準化債	5,666	5,600	98.8%
(2) 国庫補助金	2,813	2,375	84.4%
(3) 一般会計出資金	600	576	96.0%
(4) その他	177	260	146.9%
2 資本的支出	27,796	25,958	93.4%
(1) 建設改良費	11,333	9,522	84.0%
(2) 企業債償還金	16,377	16,377	100.0%
①建設企業債	14,303	14,303	100.0%
②資本費平準化債	2,074	2,074	100.0%
(3) その他	86	59	68.6%
収入が支出に不足する額 (△)	△10,556	△11,237	106.5%
企業債残高 (年度末)	238,460	233,609	98.0%

計画値 平成30年3月の収支見通し精査後の金額

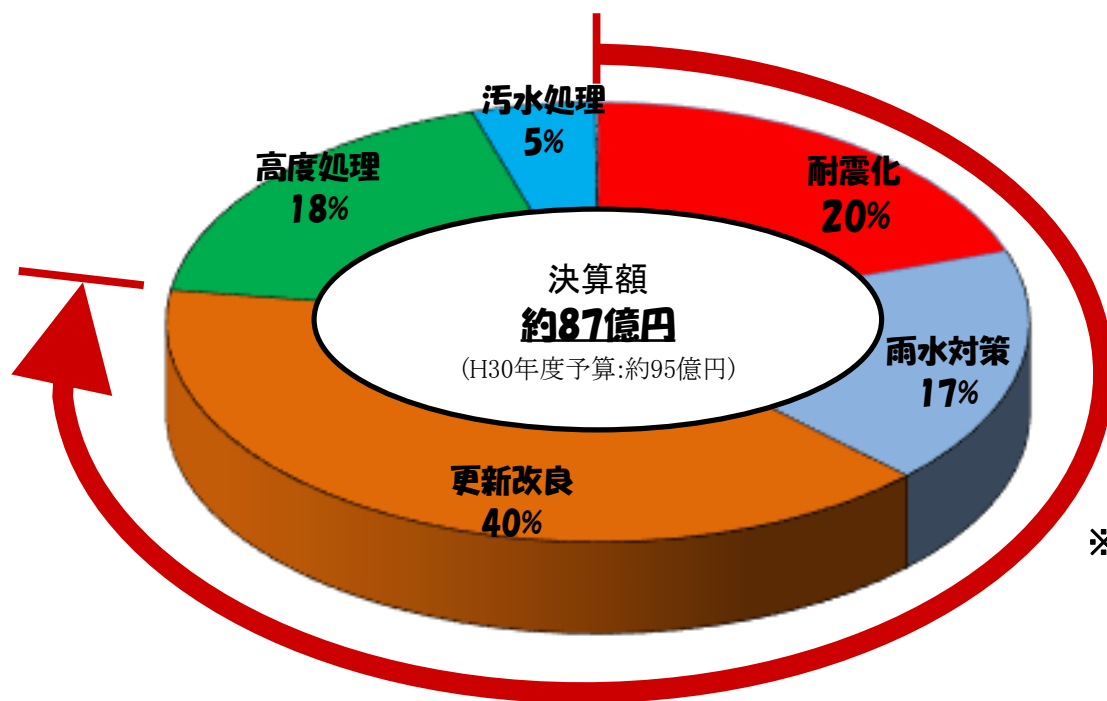


5 平成30年度決算における重点事務事業 (1) 重点事務事業の決算

防災・減災事業を重点化！ ～安全・安心のまちづくりに向けて～

◆平成30年度の決算額と施策毎の割合(%)

●平成30年度決算額 **8,684.854千円** (予算 9,496,146千円)



防災・減災事業
全体の**11%**
約67億円

※高度処理(中央浄化センター水処理施設の建設)は耐震化、老朽化対策も兼ねており併せると 全体の **95%** 約83億円

5 平成30年度決算における重点事務事業 (2) 主要事業の実績

◆主要事業

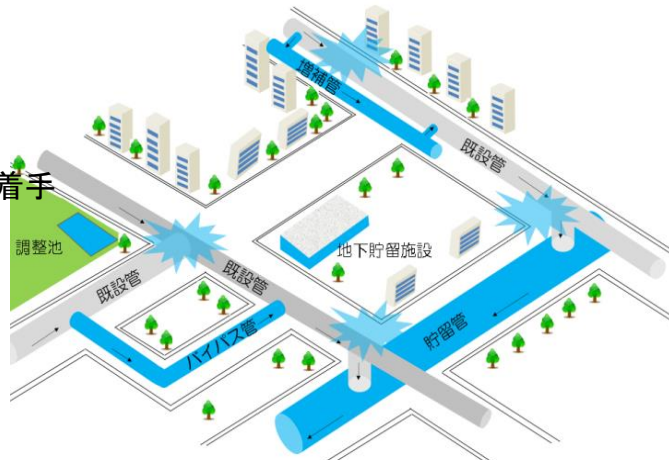
局地的な浸水被害を軽減するため、浸水リスクや都市機能の集積度が高いJR千葉駅東口などの地区は整備水準を引き上げ、『重点地区』として浸水対策を強化するとともに、過去に浸水被害が発生しているその他の地区を『一般地区』として、地域の状況に応じた効率的な雨水管渠などの整備を進めるほか、引き続き、市民による防水板設置費用の一部を助成します。

(1) 浸水被害の軽減と対策の強化 1,523,452千円 (予算1,739,725千円)

① 雨水整備(重点地区)

【重点地区 1/5箇所着手】

富士見 (JR千葉駅東口) 着手

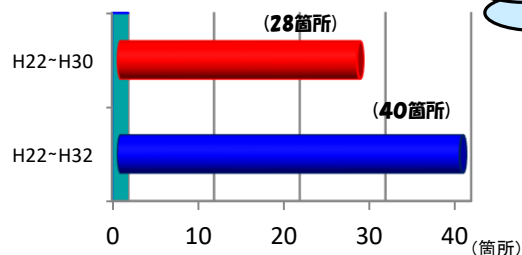


② 雨水整備(一般地区)

【一般地区 28/40箇所整備完了】 柏井地区外 3地区着手

下水道事業中長期経営計画
(H22~32) 進捗状況

浸水対策箇所数

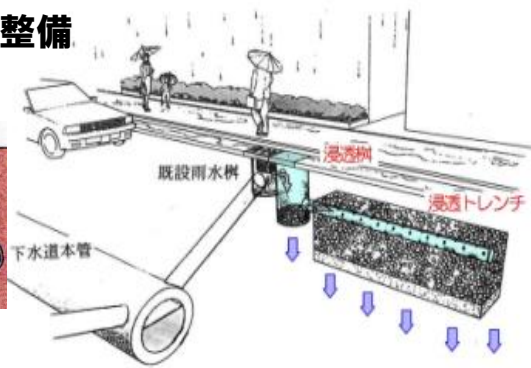
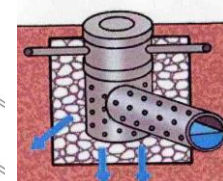


ハード対策に加え、
ソフト対策も行っています



③ 浸透施設整備

轟町地区外



④ 助成制度

防水板設置費用の一部を助成

住宅・マンションなどの防水板設置工事に
助成金を交付



(2) 地震時における下水道機能の確保 1,718,301千円(予算:2,048,245千円)

① 下水道施設の耐震化(管渠)

5.6km 【耐震化 進捗率74%(64/86km)完了】

美浜区：幸町地区他

東日本大震災で被災した美浜区を重点的に整備

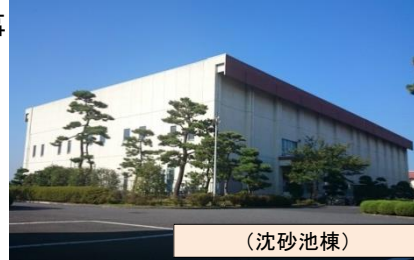
中央区：千葉港地区他

液状化の危険性が高い地区を実施

② 下水道施設の耐震化(処理場・ポンプ場)

1箇所【処理場等の耐震化 6/6箇所完了】

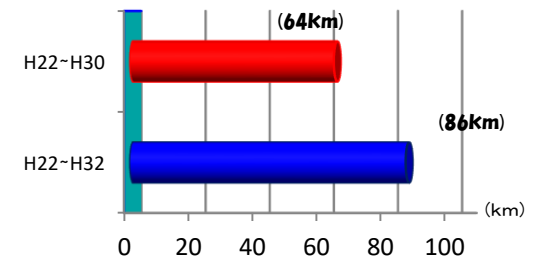
南部浄化センター沈砂池機械室棟耐震補強工事



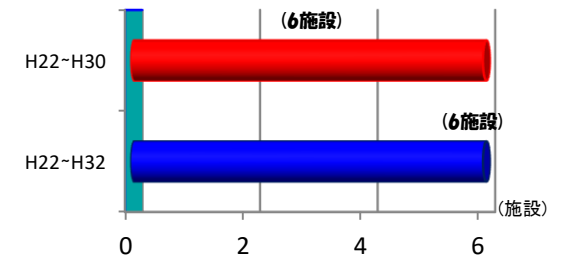
(沈砂池棟)

下水道事業中長期経営計画
(H22~32) 進捗状況

管渠の耐震化 整備延長



処理場・ポンプ場の耐震化



③ マンホールトイレの設置 7箇所(35基)【避難所となる小学校などにマンホールトイレ 63/116箇所設置完了】

鶴沢小学校 他

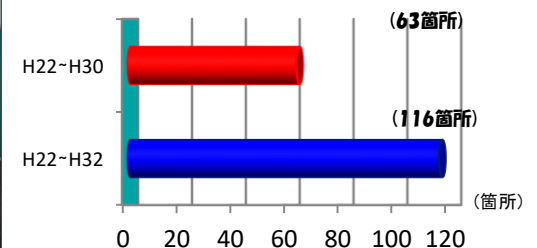


避難所でも安心して
トイレが使えます



(マンホールトイレ)

マンホールトイレ設置箇所数



(3) スtockマネジメントの推進 3,472,265千円 (予算:3,637,819千円)

老朽化した管渠、処理場・ポンプ場設備の改築を計画的に進めており、安定的な下水道サービスを提供していきます。

① 下水道施設の改築(処理場・ポンプ場)

365点【改築設備点数 進捗率88%(2,523/2,882点)完了】

南部浄化センター

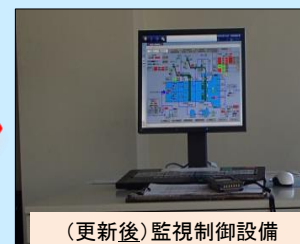
出洲、大椎ポンプ場、小規模ポンプ場



下水道の機能を
適正に維持します



(更新前) 監視制御設備



(更新後) 監視制御設備



② 南部浄化センター汚泥消化タンクの建設

機械・電気設備工事



下水処理工程から出る
汚泥の減容化を図ります



(更新前)



(更新後)



汚泥処理工程で発生する消化ガスをボイラーの代替燃料などに利用し、下水道資源を有効利用しています。



3-2系 汚泥消化タンク

③ 下水道施設の改築(管渠) 8.6km 【改築 進捗率66% (60/91km)】

中央区：亀井町、問屋町、道場南、本町地区

稲毛区：轟町地区

若葉区：小倉台、都賀の台、千城台東地区



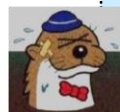
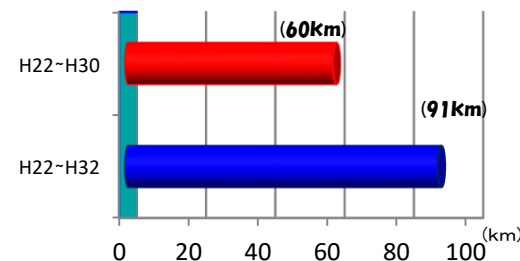
道路陥没を未然に
防止します



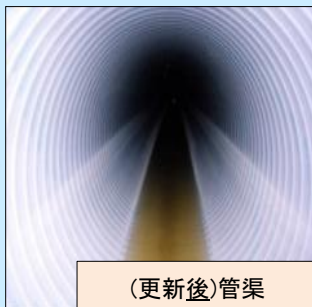
(事例：道路陥没)

下水道事業中長期経営計画 (H22～32) 進捗状況

管渠の改良 整備延長



(更新前)管渠

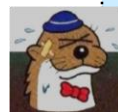


(更新後)管渠

④ 下水道施設の適正な維持管理

マンホール蓋の更新 1,216個

草野みずのみち (護岸塗装) 80m



護岸塗装前



護岸塗装後



(4) 海辺の水質保全 1,560,455千円(予算:1,640,303千円)

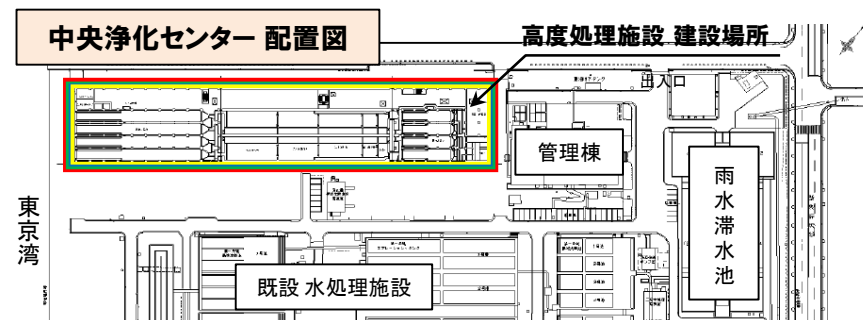
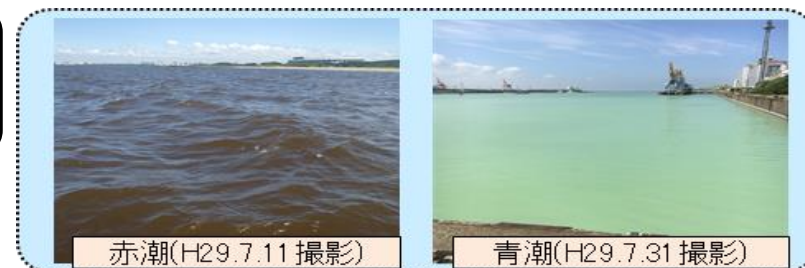
東京湾で発生する赤潮・青潮の発生要因の一つである窒素・リンを除去するため、処理場において高度処理施設の整備を行います。

中央浄化センター水処理施設建設工事

(平成27～平成30年度継続工事)

中央浄化センター分配槽建設工事

(平成30～平成31年度継続工事)



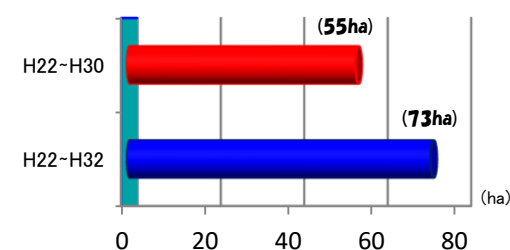
(5) 下水道未普及地域の解消 402,281千円(予算:421,054千円)

汚水整備 3ha【22地区を整備 汚水整備(55/74ha)完了】

仁戸名町地区 他4地区

下水道事業中長期経営計画
(H22～32) 進捗状況

汚水 整備面積





イメージキャラクター
「カワウソ一家」
左上：アクア（パパ）
右上：クリーン（ママ）
中央下：かわちゃん（女の子）